



## 「如意輪観世音菩薩坐像」

鎌倉時代 清水寺所蔵 高さ 94.0cm

如意宝珠と宝輪の力で利益を与えるとされる観音菩薩です。観音菩薩像は女性をイメージして造られることが多く、しばしば天照大神と同一視され、中世には地獄から女人を救済するという信仰が生まれました。この像は檜材を用いた寄木造で、目には水晶製の玉眼がはめ込まれ、表面には漆で金箔が貼られています。内側からは、伊予法眼という仏師が修理をしたという墨書が見つかりました。

特別展「京都 清水寺展」で展示されます。

## 特別展

# 京都・清水寺展

2007. 4. 20(金)~ 5. 27(日)

東山の景勝の地、音羽山麓に位置する清水寺は、1994年にユネスコの世界遺産にも登録され、京都ばかりか日本を代表する観光地のひとつとなっています。一度は訪れたことのある人も多いことでしょう。清水寺は平安京に都が遷される以前からの歴史を持つ数少ない寺院であり、寺に伝わる縁起絵巻によれば、宝亀9年(778)に延鎮という僧によって創建されたと伝えられます。

清水寺は庶民から貴族まで広い層の信仰の対象となり、その門前のにぎやかさは清少納言の『枕草子』にも記されたほどですが、逆にそのために清水寺は何度も火災に遭い、伽藍<sup>がらん</sup>を失ってきました。参詣者の増加に伴って門前や寺内に民家や僧坊が建ち並び、ここから出火することが多かったのです。また、寺院間の抗争や鎌倉~室町時代の戦乱によってもたびたび焼失しましたが、そのたびごとに時をおかずに再建されたことは、清水寺がいかに人々の信仰を集め親しまれていたかを物語っています。

今回の展示では、清水寺の代名詞でもある舞台を持つ本堂から、本尊御前立の十一面千手観世音菩薩や二十八部衆のうちから6体などを展



清水寺境内図屏風(部分)

示します。御前立とは、厨子のなかに秘仏として安置された仏像の代わりとして、本尊とおなじ姿で造られた像です。頭上で手を組んで阿弥陀如来をささげた「清水型」と呼ばれる独特の姿をしています。そのほか奥の院の秘仏である地蔵菩薩と毘沙門天、京都三十三



本堂 十一面千手観世音菩薩立像  
(本尊御前立)

間堂の像を忠実に写した風神・雷神や二十八部衆を、奥の院の雰囲気<sup>きふき</sup>を再現した雛壇に展示し、平安時代から江戸時代までのさまざまな仏像や屏風とともにご覧いただけます。

修学旅行でもおなじみの清水寺ですが、清水寺創建以来の長い歴史と人々の信仰の証しを知ること、その魅力を再発見していただければと思います。

そのほかの主な展示品

十一面観世音菩薩立像(重要文化財)

毘沙門天立像(重要文化財)

清水寺参詣曼荼羅

坂上田村麻呂公・高子夫人像

### 会期中の催し

講演会 4月20日(金) 11:00~  
清水寺貫主 森 清範 師「観音のこころ」  
展示説明会 毎週土・日曜日  
各回11:00~、14:00~  
清水寺学芸員による展示説明  
雅楽演奏 5月3日(木・祝) 13:30~  
本巢市 金原雅楽会のみなさん  
まちなか博士 バス見学会  
重要文化財の仏像をめぐる  
- 美江寺・延算寺・真長寺 -  
5月5日(土・祝) 10:30~16:00  
徳山流 現代津軽三味線 LIVE!  
5月6日(日) 13:30~、15:00~  
徳山 弦泉さん

## 加藤栄三・東一記念美術館

### 加藤栄三・東一 故郷：岐阜を描く

2007. 4. 24 (火) ~ 7. 1 (日)

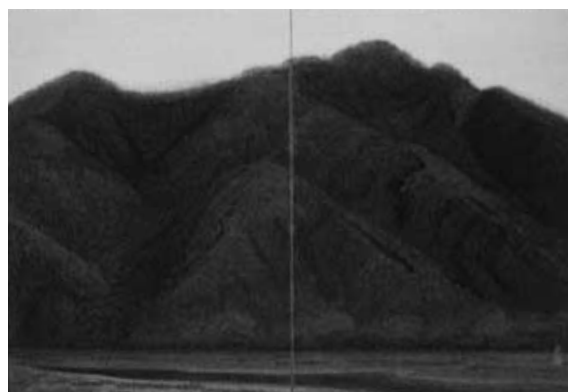
岐阜市美殿町で漆器商を営む父：梅太郎と母：  
ための子どもとして生まれた栄三(三男)・東一  
(五男)は、東京美術学校(現東京芸大)へ入学す  
るまでの多感な少年期を岐阜で過ごしました。

昭和44年、弟東一とともにインド・ネパール  
を旅した栄三は、ネパールの首都カトマンズ郊  
外で山の蛮気といったものを感じ、ふっと飛騨  
高山の町を思い出し、日本へ帰ったら出来るだ  
け早く高山の町を訪れようと思いました。

その後、たびたび帰郷し高山祭りや長良川鵜  
飼といった故郷の風景をスケッチし作品として  
描きました。

東一はある対談で故郷への思いを次のように  
語っています。

「誰でもそうでしょうが、故郷というのは有



東一作「山(金華山)」

り難く懐かしいものですね。長良川で孵化した  
鮎の稚魚は、一度は海に下るのですが、やがて  
再び母なる川・長良川に回帰してくる。私もや  
やそれに似ており、一度は故郷に背をむけたけ  
れど、ようやく故郷に帰って来たという感じが  
ありますね。」

所蔵作品の中から、栄三作「高山三之町」「篝  
映」「秋」「鵜かご」、東一作「篝火」「金華山」  
「長良川夕景」「千本松原」「淡墨桜」など、栄  
三・東一がこよなく愛した故郷を描いた作品を  
展示します。

栄三・東一は、鵜飼についての思いを次のよ  
うに語っています。

栄三

「群青の夜空をこがして舞い上がる炎、篝火  
の下で躍動する鵜、ホウホウとふなばたをたた  
いて鵜を励ます中乗りの掛け声、風折烏帽子姿  
の鵜匠の機敏な動きなど、すべてが一つとなっ  
て早瀬を下る。呼吸が合わなければなにもつか  
めない。私の顔にも、手にも、火の粉がふりか  
かる。私自身、炎になって、鵜になって、それ  
らに溶けこんでゆく。」

東一

「鵜飼を何十枚何百枚描いても、これは、とい  
うのはなかなか描けませんね。何度も繰り返し  
見ているから、わかっているつもりでいても、  
またあらためて見ると新しく気がついたり、こ  
ちらの成長とともに前に見えなかったことが見  
えてくる。今夜の鵜飼と明夜のそれは、同じ鵜  
飼をやっても、決して同じではない。」

それぞれの画家がいかに鵜飼をとらえ、その  
心にどのように映ったか作品をとおして鑑賞す  
る良い機会だと思います。特に小品ですが熊谷  
守一の描いた「鵜」は、守一らしい奥深い作品  
です。ぜひご鑑賞ください。

## 加藤栄三・東一記念美術館

### 悠久の時を越え、今に伝える感動絵巻 絵画に描かれた鵜飼

2007. 7. 3 (火) ~ 9. 17 (月)

悠久の時を越え、営々と受け継がれてきた岐  
阜長良川の鵜飼。今年も5月11日から10月15日  
まで開催されます。この季節、来館者から栄  
三・東一の描いた鵜飼の作品を鑑賞したいとい  
う要望を多く受けま

す。  
その要望に応え  
て、所蔵作品の中  
から加藤栄三・東一、  
熊谷守一、長縄士  
郎、岡田春生、石原  
進、片桐乙日子、久  
芳道信、箕輪芳二と  
いった画家が鵜飼を  
描いた作品を展示し  
ます。



栄三作「鵜」

## 企画展

# 長良川うかいミュージアム

2007.7.6(金)~9.2(日)

岐阜の代表的な観光スポットである鵜飼。長良川の鵜飼は、岐阜市長良で6名、関市小瀬で3名が宮内庁式部職鵜匠に任じられ、毎年5月11日の鵜飼開きより10月15日の鵜飼終いまで、増水や荒天、仲秋の名月の日を除き、毎日行っています。

では、全国12カ所で行われている鵜飼の中で唯一宮内庁より「鵜匠」の任命を受け、全国最多の集客数を誇る長良川鵜飼の特徴とは何でしょうか。第一に当地における鵜飼の痕跡が1300年以上前から残り、長い歴史を誇ることがあげられます。江戸時代には徳川幕府、尾張藩の庇護を受け、優先的な漁業権が認められ、鵜匠頭には苗字帯刀が許されていました。このように鵜匠を保護したのは、現代のように観覧の対象であったと同時に、鵜飼漁で獲れた鮎を材料とした鮎ズシなどを毎年献上させていたからです。明治維新でその特権が失われ、漁獲量も激減して存亡の危機に立たされましたが、二つの回生策を講じて保護されました。一つは、明治23年(1890)長良川筋に3カ所の禁漁区を設置して宮内省御猟場と定め、猟場の「監守」等とともに「鵜匠」を置いて身分を保証したこと。もう一つが、長良では長良遊船組合を明治21年に興し、乗船料の一部を長良鵜匠に支払うようにしたことです。現代の長良川鵜飼の仕組みはこの時期に形作られたといっていいいでしょう。

このように、鵜飼には漁獲を競う「漁」と、観覧客に見せる「観光」の部分があります。長良川の鵜飼漁は中流域でおこなわれ、かつては1艘の舟で鵜匠と中鵜使い合わせて16羽ほどの鵜を使い、瀬を下りながら複数の舟で漁をしました。鵜は通年鵜匠の元で飼育され、シーズンオフには美濃地方の川で自由に魚を獲らせて養いました。鵜匠が使う鵜や、鵜飼舟の数は全国で最も多く、これらの技術はいずれも漁獲を上

げるための一つの到達点であり、大きな特徴といえるでしょう。今日、私たちが普段目にするのは観覧の便宜に配慮した観光向けの鵜飼ですが、そこには長い年月に培われた漁の技術が活かされているのです。

本展では、このような長良川鵜飼に関する歴史資料や国指定重要有形民俗文化財の鵜飼用具に写真などを交えてわかりやすく展示し、鵜飼観覧にあたって、その奥に秘められた歴史と技を垣間見ることができるように紹介します。

## 関連行事

鵜飼の里探訪ウォーク

7月21日(土)・8月25日(土) 13:00~16:00

展示の説明と、鵜匠家周辺・鵜飼観覧船造船所などを見学し、岐阜市鵜飼観覧船事務所前で解散します。

展示説明会

7月7・14日、8月11日、9月1日の各土曜日

16:00~



『美濃奇観』より 鵜匠手縄持たる図

池田崇広筆 明治13年(1880)ごろ

約130年前の鵜匠の姿。漁服の袖口が広く、たすきがけをしています(現在は筒袖)。左手の親指と人差し指をあけて手縄を持つのは、鵜のくちばしをこの2本指で開けて魚を吐かせるためです。

## 歴博セレクション

### 護国之寺縁起と東大寺大仏縁起

6月2日(土)～6月24日(日)

岐阜市長良雄総ごくしじの護国之寺には奈良時代の金銅獅子唐草文鉢が伝えられ、岐阜市内唯一の国宝に指定されています。この鉢については、東大寺の大仏鑄造を指揮した日野金丸に聖武天皇が下賜したという伝説が知られています。その源になったのは、同寺に伝わる「護国之寺縁起」です。現存する縁起は戦国時代から江戸初期にかけてのものですが、実際にはそれに先行する「プレ縁起」が存在し、長い時間を経てモチーフが変容したり、新たに付け加わったりしたのです。

一方、東大寺側で編纂された縁起として「東大寺縁起絵詞」や「東大寺大仏縁起」が知られています。そこ

には仏鉢は登場しませんし、金丸という名前はでてきませんが、大仏鑄造の棟梁を求めて派遣された勅使が美濃国の川原で童子に出会ったこと、童子の父が千手観音を本尊として雄総寺（護国之寺）を建立したことなどが記されています。

今回の歴博セレクションでは、「護国之寺縁起」「東大寺縁起絵詞」「東大寺大仏縁起」を中心に、金丸伝説と深くかかわる金銅獅子唐草文鉢（複製）や護国之寺に伝わる塑像を陳列することにしました。展示品を通して、金丸伝説がどのような過程で成立したかを考えてみたいと思います。（歴博セレクションは1階特別展示室の一部をつかって開催）



東大寺大仏縁起（部分）江戸時代

### 特集展示（2階 総合展示室内）

2階の総合展示室の一角に特集展示コーナーを設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。4月から7月の日程は下記のとおりです。

- 4月8日（日）まで 「刀剣の美 ～その歴史をたどる～」
- 4月12日（木）～5月20日（日） 「弥生時代の暮らし」
- 5月24日（木）～6月24日（日） 「蓑虫山人の足跡」
- 6月28日（木）～7月29日（日） 「プロレス博物館展 ～岐阜とプロレス その知られざる魅力～」

### 柳津歴史民俗資料室の展示

分室・柳津歴史民俗資料室（岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階）では、4月から8月まで次の日程で展示を行います。観覧は無料です。

- 4月15日（日）まで 「思い出の小学校」
- 4月17日（火）～5月13日（日） 「～健やかな成長を願って～ 五月人形」
- 5月15日（火）～7月1日（日） 「須恵器の世界」
- 7月3日（火）～8月26日（日） 「戦中の暮らしと人びと」

## みんなあつまれ!おはじき大会

今年11回目を迎えた「ちょっと昔の道具たち」展は、130年～30年前の暮らしの道具を実際に使ったり触ったりできる、当館の人気展覧会です。会場にはいろんな遊びができる「わくわくはらっぱ」コーナーがあります。ベーゴマ、竹馬、どんぐり鉄砲、ケンケンパなどの屋外遊び。おはじき、ダルマ落とし、お手玉などの座敷遊び。どれも現代っ子には“新鮮”で、ボランティアの「ものしり博士」に遊び方を教えてもらっています。練習すればできるようになる遊びは魅力たっぷり、展覧会で知ってから熱中する子どもたくさんいます。博物館では、遊び方を教えるだけでなく、競い合う場を設けることで面白さをもっと伝えたいと考え、紙ヒコウキ大会、ベーゴマ大会などを開催してきました。

「みんなあつまれ!おはじき大会」は今年度で5回目です。今年は2月12日(月・祝日)に、

5歳から小学校4年生までの男女あわせて23名が参加してくれました。まず、初めての子のためのおはじき教室を開いて、「ものしり博士」がコツを伝授し、ルールを確認。そのあと年齢別の4グループに分かれて予選をし、その代表2名ずつ計8名が集まってトーナメント方式で決勝戦となりました。小さな平たいガラス玉にそそがれる眼差しは真剣そのもので、予選から決勝まで1時間半がかり。入賞者6人に賞品が、参加者全員に参加賞のおはじきとメンコが渡されました(写真は優勝決定戦のようす)。



## 博物館のある忙しい朝

毎年3月半ばのある一日、朝から歴史博物館への電話がつながりにくくなります。システム障害、というわけではなく、その日は午前9時になると同時に、「博物館実習」への申し込みの電話が殺到するのです。

博物館で働く学芸員になるには、多くの場合「学芸員資格」が必要となります。一般的には大学で課程を履修して資格をとるのですが、その中で、実際に博物館の現場で学芸員の仕事を学ぶことが必要とされています。冒頭の電話は、その実習を受けるために先着順の申し込みをする大学生がかけてくるものなのです。

岐阜市歴史博物館では、毎年40人近くの学生が実習を受けています。実習では学生は考古・民俗などの各分野に分かれ、資料の取り扱いや展覧会の企画、博物館の運営などについて学びます。もちろんこれらは事前に大学で勉強していることなのですが、実際の博物館で、学芸員から本物の資料を使って学ぶ緊張感を実習

ならではといえます。学芸員には幅広い年代の来館者への対応やボランティアとのやりとりなど、さまざまな面でのコミュニケーションスキルも必要とされます。学生さんには、夏休み期間中には講座で子どもの指導補助をしたり、展示室に出てボランティアさんと一緒に展示解説をしたりと、来館者と直接ふれあう機会を持ってもらいますが、なかには、お客様にどう話しかけたらいいかわからない、と戸惑う学生さんもいます。経験をつめばできるようになることも多いのですが、あらためてその重要性をわかってもらうことも大切なことでしょう。

夏から秋にかけて、博物館のあちこちで大学生が活動しているのを目にすることがあったら、それは学芸員のたまごが博物館実習を受けているところです。もしかしたら、展示室で所在なげに立っていることもあるかもしれません。そんなときにはぜひ声をかけて、未来の学芸員育成に一役買ってみたいはいかがでしょうか。(三山 らさ)

# 平成18年度受贈資料一覧

平成18年度には、下記のみなさまに貴重な資料をご寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

芳名（敬称略）	資 料 名
井川 松美	飛行機図ガラス鉢
伊藤 久子	洛中洛外図（6曲1双）
伊藤 義文	軟式テニスラケット・出訴取扱手続など古文書5件
今井 久雄	有明町回状箱2点・有明町班員名板3枚・年末助け合い募金箱
今井 宗久	「花王ワンダフル」缶・ジュラルミン板・手回しミシン
宇佐美 隆	村上式上皿天秤秤・下皿天秤秤・松下自動照明顕微鏡
白井 薫	写真陳列用スタンド10本・『私の昭和写真史』・『写真集街道』
遠藤 十子	頼山陽筆 七言絶句（双幅）
岡野 昭夫	配置薬箱（体験用）
小木曾晶子	手回しミシン
加藤 得誠	躍進日本大博覧会絵はがき15枚
金森 久子	高下駄（体験用）2足
金子二三雄	判取帳
兼松靖・英子	蓄音機・レコード2箱（体験用）
加納 勝	蓑2着（体験用）・天秤棒2本
日下部泰雄	古文書7箱
後藤 成顯	三輪祭り絵馬
後藤大八郎	桐火鉢1対・箸洗い5客・秋草図黒塗膳5客
後藤美治郎	かわらけ 5枚
柴山 新二	近代生活資料一式、近代中学校教科書・参考書類一式
島尻永司・尚子	諸国道中細見絵図集・国郡全図並大名武鑑・杯
竹中 弘子	茶道表千家御流教本ほか書籍3件
田中 和夫	仙媒（観音心経）・達磨形香合・寄書き画帖
堂後自治会	堂後自治会保存資料一括
永井スミエ	針箱
永田 弘之	可児市内出土土器一括
中野 葉子	『ものがたり日本れきし』など図書8件16冊
中村 もと	東郷元帥鉛筆・子ども用桐下駄
難波 誠	輪島塗膳椀1組・黒塗高脚膳椀2組・夜食膳10枚・溜塗平膳10枚・赤塗金 蒔絵扇面散らし源氏紋入平膳10枚・薬箱3箱
野田 明成	鉄頭丸火箸
羽賀 秀樹	電気トースター・五ツ玉算盤・ノベルティグラス
林 隆治	家紋入り布
早水 久雄	ブラ提灯・証書類一式
東山 通泰	『名古屋の句碑巡礼』など文化財叢書39冊
福島 光夫	福島光夫氏教育資料一括
堀 丈夫	博覧会メダル5枚・記念銀盃1対・“Souvenir and Guide to Old Japan”・ “Lady's Pictorial”
矢島 慶久	岐阜勤労者音楽協議会資料一式
山内 英司	『清正記 初篇巻二』
山下 哲司	篝



# 館蔵資料紹介

むしろ だはいじ  
席田廃寺出土瓦（川村功勝氏寄贈）

複弁八弁蓮華文軒丸瓦（瓦当径 16.9cm、中房径 7.0cm、中房厚 22mm）

四重弧文軒平瓦（瓦当厚 40mm）

席田廃寺は現在の本巣市石原に位置する古代寺院跡です。発掘調査が行われたことがないため、伽藍配置などの詳細は不明ですが、石原地区にある八幡神社とその周辺からは、古くから白鳳期の瓦などがみつかることが知られていました。現在も八幡神社へいくと砂岩の礎石が幾つも残されており、そのなごりをみることができます。



ここで紹介する瓦も八幡神社に隣接する民家からみつかったものです。軒平瓦は、瓦当部（軒先）からなだらかに薄くなり平瓦につながるタイプで、瓦当の重弧文は整ったV字形をしています。軒丸瓦は複弁八弁蓮華文という蓮の花を真上から見たようなデザインで、中央には蓮子（種子）、外縁には面違鋸歯文がうっすらとみられます。この鋸歯文を持つ複弁八弁蓮華文軒丸瓦は奈良・川原寺の瓦の特徴であり、同系列のものは奈良周辺や近江、伊勢、美濃の他、全国に分布しています。川原寺は天武天皇とゆかりの深いことから、関係する豪族が建立した寺院に採用された瓦ともいわれています。

この軒丸瓦の文様をよく観察すると、型抜き後に外縁の鋸歯文を指で消しています。原型である範を削って鋸歯文を消す事例はありますが、指でナデ消すのは他に例がなく、これは席田廃寺瓦の技法上の特徴といえるでしょう。このような技法の違いは大和から直接工人がやってきたのではなく、鋸歯文を削るという情報をうけて地元の工人が作った結果なのかもしれません。地方における瓦作りの体制がどのようなものであったのか、その解決の糸口を教えてくださいたい気がします。

\*\*\*\*\*

## 利用の御案内

**開館時間** 午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）  
**休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日  
（月曜日が休日の場合は翌日）  
特別展期間中は変更することがありますのでご注意ください。

**観覧料**  
歴史博物館常設展、加藤栄三・東一記念美術館  
高校生以上 300円（団体240円）  
小・中学生 150円（団体 90円）  
両館共通で観覧される場合  
高校生以上 500円（団体400円）  
小・中学生 250円（団体150円）  
市内の小・中学生は無料、団体は20名以上  
**企画展** 常設展料金で御覧いただけます。  
**特別展** そのつど定めた金額

**交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。  
公園内ロープウェイ乗場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより 65 2007.4  
編集・発行 岐阜市歴史博物館  
〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010  
（分館）加藤栄三・東一記念美術館  
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410